

伊丹の新地名

(伊丹市の地名で昭和以降に誕生し、現存する町名の由来など)

伊丹市の「地名」については、本ホームページ目次にある「旧地名の案内板」で詳しく解説されているが、ここでは旧地名に対する「新地名」について触れてみる。まず、この文章を書くにあたり、新旧地名とは、1955 年<昭和 30 年>旧長尾村の一部を編入して、現在の市域が確定した当時の大字地名を旧地名とし、その後誕生し、現在(2022 年令和 4 年)も存在する町名を「新地名」とする。現在の町名は、便宜上、郵便番号を利用する。〒664 で始まる一覧表をかぞえてみると、その数は 75 である(※1)。また、旧地名は私の手もとにある「昭和 28 年ころの伊丹市図」の「大字」では、29 となっている。単純計算で新地名は地域の細分化などにより 46 地名が増加したということになるが、その内容をみてもみることにする。

全国的に、バブルの時代を前後して都市開発がすすみ、町名変更・住居表示(1962 年昭和 37 年住居表示に関する法律)の実施などで、その多くが行政主導のもと(※2)旧来の地名が消えた。伊丹市でも、小字名はほぼ消滅し、4 ヶ所の大字名が消滅した。当時の社説や投稿などで、地名が無くなることを嘆く記事が多くみられた。

※1 小阪田のうち、〒664 扱いは「小阪田都賀元」であり、「小阪田食田」は伊丹市地域内であるが、池田郵便局扱いとなるため、〒 563-0801 となる。

郵便番号一覧表の別枠として、〒664-0000 を設けており、また住所をはなれ、個別事業所毎(〒664-8503 伊丹市役所)などが設定されている。

※2 「町名は地域を特定するための名称にすぎず、住民には裁判で争う法律上の権利はない。」(1973 年<昭和 48 年>最高裁判例)。

(ア) 旧村名がそのままの現町名であるもの(※)。(〒664 の 75 ヶ所のうち 25 ヶ所が旧大字地名をそのまま残しているが「大字」は脱落している)

荒牧 池尻 伊丹 岩屋 大鹿 荻野 小阪田 北河原 口酒井 鴻池 御願塚 昆陽 下河原 千僧 寺本 中村 西桑津 西野 野間 東桑津 東野 堀池 南野 森本 山田

※ 旧地名消滅 4 ヶ所 天津 北村 中野 山本

「中野」は「中野東」などによりその名をとどめているが「中野」としての地名は消滅した。稲野町(稲野村)は次項の(イ)とした。

上記4地名は「本籍」などに、公文書が現存する場合がある。

(イ) 旧村名に東西南北などの単語をつけた現町名。(〒664 の 75 ヶ所のうち 14 ヶ所が旧大字地名をなんらかの形で残している) 旧地名のままではないので、新地名とも言える。

「町名変更にあたっては、旧地名を尊重すべきだ。そのため、その土地の元来の旧村の東西南北のどの方角部分に当たるかということを考えた町名変更などで、旧地名を存続させるべきだ。」と、当時の博物館館長であった門脇良光氏が発言したという。

住居表示に関する法律第 5 条;町又は字の名称をあらたに定めるときは、できるだけ従来の名称に準拠するとともに読みやすく、かつ、簡明なものにしなければならない。(同条は昭和 60 年に改正されているが、発言当時の条文を記載している)

荒牧南 荻野西 桑津(※1) 昆陽池(※2) 昆陽泉町(※3) 昆陽北 昆陽東 昆陽南 寺本東 中野東 中野西 中野北 野間北 南野北

※1 桑津は、1999年<平成11年>7月5日(1~3丁目であり、4丁目は平成19年2月5日)・住居表示。厳密に言うと「旧村名に単語をつけた現町名」ではなく「旧村名から単語を外した現町名」である。旧地名として「東桑津」「西桑津」はあったが、「桑津」という旧地名は無かった。旧地名もそのまま町名として残っている(人口ゼロ)。東桑津本村は飛行場用地となったが、新たに「桑津」が誕生した。北を中村、北東を大字西桑津、東を小阪田、南を森本、西を大字東桑津と接する。西桑津の西側に東桑津があるのは伊丹飛行場(現在の大阪国際空港)の拡張に際して土地収用が行われ、旧東桑津村の本村だった場所が小阪田へ編入されて西桑津の西側にあった飛地部分のみが「東桑津」の名を冠したまま残ったからである。こども文化科学館あり。

※2 昆陽池(昆陽)は、1981年<昭和56年>3月1日・住居表示。伊丹市を代表する昆陽池をもつことからの命名の新地名と考えられる。大字昆陽から分離し、独立した昆陽池1~3丁目が設定された。北の一点で瑞原、北東で瑞ヶ丘、東で広畑、南東の一点で千僧、南で昆陽、南西で昆陽北、西で松ヶ丘、北西で中野東と接している。3丁目の大部分は昆陽池公園が占めている。旧来の(昆陽池)の埋立地は「瑞ヶ丘」となっている。市民病院あり。旧小字名は宮ノ後・林ノロ・一ツ樋・荒内・オンド林

※3 昆陽泉町(昆陽)は、南野南菱町とともに1950年<昭和25年>3月10日の耕地整理により誕生し、1951年<昭和26年>2月3日町名変更(1~5丁目)。6丁目は平成19年3月5日・住居表示。命名は、当地が住友電気工業伊丹社宅(住友南社宅)であったことから、創業家である住友家が用いた屋号「泉屋」の「泉」をつけたと考えられる。大字昆陽の旧小字名は、大道堀・道ノ辺。

(ウ) 旧村の小字名がその付近の代表町名となっている現町名。(〒664の75カ所のうち9カ所が旧小字地名を残している(※1))「兵庫」が神戸の一地区から県名になったのと同じく、小字が町名に昇格した新地名と言える。

鋳物師(北村)、大野(山本)(※2)、奥畑(寺本)、車塚(野間)、平松(伊丹)、広畑(千僧)、藤ノ木(天津)、船原(伊丹)、宮ノ前(伊丹)

※1 安堂寺町(南野)・梅ノ木(伊丹)・清水(伊丹)・桜ヶ丘(大鹿)は次項の(エ)とした。

※2 大野は、1979年<昭和54年>11月11日・住居表示。江戸時代、山本村と平井村に属する芝地があった。山本領分が開発されて大野(埜)新田となっていた。荻野村が山本村に借地料を支払い、牛飼いのための草刈り場としていた。山本村・平井村が宝塚市となる中、この地だけが伊丹市となった。西に自衛隊阪神地区病院がある(川西市域)。

(エ) 昭和期後半に新しく町名として誕生した現町名。(〒664の75カ所の内27カ所)

地名研究という研究分野があって、その土地の語源などを研究する学問があるが、先述のように、従来から存在している地名は「旧地名の案内板」で詳しく解説され、想像をかきたてるロマンとなっているが、「新地名」については、研究の余地はなく、たかだか60年程度前のことであるから、地名誕生当時を知る先輩諸氏も多数おられる。第一、町名を決定するのは行政・自治体であり、その決定にあたっては「永年保存」の決裁文書や市議会の議事録なども多数存在するであろう。現在は情報公開請求など、煩雑な手続きを要する事があるが、近い将来、文書のデータベース化が進めば、インターネットで手軽に地名誕生由来を調べることが出来る筈である。筆者はその決裁文書等を見ていないので、聞き取りなどで得た情報を羅列した。誤情報も考えられることから、今後ご批判を頂きながら、稀有な地名由来情報等を保有されておられる方からの提供をお願いし、この文書内容の訂正・加筆そして完成をはかっていきたい。

1.安堂寺町 1974年<昭和49年>2月1日・町名変更。

「安堂寺」は旧地名「南野東安堂寺」「南野西安堂寺」が存在しており、上記(ウ)に抵触するが、旧地名は「安堂寺」ではない。「安堂寺」地名由来は、本ホームページ目次の「旧地名の案内板」南野、茨木童子伝説参照。

地域は旧南野村の一部であり、旧大字南野の小字名は、東安堂寺、石盛、辻、矢倉塚、辰巳

垣内、庵ノ前、西安堂寺、平塚、南ノ口、宮ノ前、長沢となる。阪急住宅自治会あり。

2. 稲野町 1957年<昭和32年>12月1日・町名変更。

当地は上記(ア)に抵触する。御願塚の南部が稲野町 1~7 丁目となった。旧大字御願塚上掛塚・下掛塚・温塚・宮巡・勘定舗・別当・貝毛・庵ノ前・辰巳垣内。上代から「猪名野笹原」とよばれていたことから稲野村(1889年<明治22年>4月1日 町村制施行)であったことによる。そして、1921年<大正10年>5月に開設された阪急伊丹線稲野停留所に由来する。旧川辺郡稲野村で初めてできた玄関口としての駅の誕生であった。1925年<大正14年>稲野住宅として売り出し、現在の町域の大半は阪急電鉄が伊丹線の開業に合わせ住宅地として分譲した土地である。1951年<昭和26年>稲野町住民会規約制定。こぼと保育所あり。

3. 梅ノ木 1974年<昭和49年>9月1日・住居表示。

当地も上記(ウ)に該当する。大正末期から昭和初期にかけて伊丹西部耕地組合が造成し、分譲したニュータウンの一部に当たる高級住宅街である(昭和10年3月新伊丹駅開設)。北を西台、北東の一点を中央、東を平松、南を御願塚、西を鈴原町、北西を行基町と接する。改名時は野田宮町・忠田町・梅ノ木町。

4. 柏木町 1965年(昭和40年)8月13日・町名変更。

旧大字南野墓の下・土手の内より分離して、柏木町となっているが、語源については不明である。ある本によると、「どんどん旧地名が無くなっていくが、かろうじて、古墳のお蔭で地名が残った。」とある。しかし、この古墳は従来「一ノ辺古墳」「大墓」といわれており、古名としての「柏木」は確認できない。此の地に柏が植樹されていたのかどうか不明。ここには昔、ケヤキと松の大木があり、戦争前まで残っていたが、3本とも献木されて何も無くなった。一般的に、植樹は、墓などの盗掘者の手から守るためにまわりの森林と同化し墓をカムフラージュするためなど、木への信仰に起因することが考えられる。柏や梓などは、古代から棺材としても選ばれた木々で、それらが霊のすみかである墓に植えられ、死骸の腐敗を防ぎ、その復活を促し、魂をつねにその霊のもとにつながる働きをもっていると信じられていた。その木は梓、松、柏がとくに好まれた。「柏木」は源氏物語に登場し、警護の代名詞ともなっている。1丁目に柏木古墳に南野村墓、および、頂上に笑い地藏あり。

5. 春日丘 1964年<昭和41年>5月10日・町名変更。

旧小字名は道際・大鹿口・南自然・野村・村畑・野畑。昭和41年に実施された町名変更には、市民から町名を募集し、美鈴町とともに、地域住民の応募が採用された。応募動機によると、大鹿地域に隣接することから、「鹿」といえば「奈良」。「奈良」といえば「春日山」。「春日」に新しい住宅地を想像させる「丘」をつけた、ということである。緑ヶ丘、桜ヶ丘の影響かもしれない。「有岡八景野村の晩鐘」発音寺あり。伝・和泉式部の墓あり。

6. 北伊丹 1971年<昭和46年>2月15日・町名変更。

旧川辺郡伊丹町大字北村の一部。旧小字名では、石河原・前垣内・西垣内・谷川・谷口ノ上・投田・前畑・東之口・西之口・向川原・南之町・川原・北浦・松原・政次・六ノ坪・高関・長フケ・正蓮畑・南上川原・河原・野間・北大柳・南大柳・フケ・北上川原・上河原・北八人子・南八人子・桑ノ本・茂原・西殿開地・東殿開地・北田台坊・中田台坊・南田台坊。北を川西市久代、北東を川西市東久代、東を伊丹市下河原、南東を北河原、南を北本町、南西の一点で春日丘、西を北園、北西を鋳物師と接し、東の一点では中村とも接している。地名由来としては、伊丹市の北部に当たることと、旧大字の「北村」から「北」を取っての命名とされる。市名の由来となった市中心部の伊丹とは隣接しておらず、また当地が大字伊丹の一部だったことはない。JR北伊丹駅の影響かもしれない。1937年<昭和12年>松谷化学工業(株)設立。1939年<昭和14年>大阪機工猪名川製造所を新設。辻の碑およびローラースケート場あり。

7. 北園 1971年<昭和46年>8月2日・町名変更。

旧大字北村の小字名は、西殿開地・西垣内・谷川・明神前。旧大字の「北村」から「北」を取り、一定区域の果樹園・楽園をイメージした「園」をつけた命名となったのではないかと。北保育所あり。

8. 北野 1970年<昭和45年>4月1日・町名変更。

旧大字鴻池・荻野の小字は、向井ノ内二番・二反田・長尾・長沢・長沢ノ内二番・黒福・西向・福島。旧長尾村地域では最も早く住居表示を実施し、大字鴻池の一部を北野 1～5 丁目、荻野の一部を北野 6 丁目とする町丁が設定された。伊丹市北部、旧川辺郡長尾村に属した地域。北を荒牧南、東を荻野、南から西の広い範囲を鴻池と接する。地名由来は、伊丹市北部に当たり、いずれも旧稲野村の大字である西野・東野・南野に対して「北野」が存在しなかったため町名の新設に際して命名されたと言われる。きららホールおよび西消防署荒牧出張所あり。

9. 北本町 1979 年<昭和 54 年>12 月 23 日・町名変更。

旧大字伊丹および北河原の一部を、北本町 1～3 丁目とした。旧小字名は、本町・茶園・北ノ口・信濃殿・飛鳥井・宮ノ上・宮ノ下・竹ノ鼻。地名由来は、伊丹郷町を南北に縦貫する本町通の北側に当たることより、南本町と一対で命名された。しかし、伊丹市で元来ある「本町」地名は、現在は無い。東消防署及び卸売市場あり。

10. 行基町 1959 年<昭和 34 年>12 月 1 日・町名変更。

北を千僧、北東を船原、東を西台、南東を梅ノ木、南を鈴原町、西を昆陽東と接する。旧川辺郡伊丹町大字伊丹および稲野村大字千僧の飛地だった場所及び御願塚破塚。昆陽池の造営を指導した奈良時代の高僧・行基(ぎょうき)の名前を冠した旧小字の行基田(ぎょうぎでん)より命名された。人名の行基は一般的に「ぎょうき」と「基」を清音で読むが、伊丹市内にある行基の名を冠した事物は「ぎょうぎ」と濁音で読むことが多い。1928 年<昭和 3 年>、西台地主組合が住宅地造成(第 1 期工事)。悠紀・主基・桜木・呉竹・梅園及び行基町が誕生。1923 年<大正 12 年>兵庫県立伊丹高等女学校発足。1951 年<昭和 26 年>、堀抜帽子の場所で富士帽子工業株式会社設立。市立高等学校および中央保育所あり。

西台地主組合の住宅地造成の第 2 期工事とした北部分には 1931 年<昭和 6 年>実塚町・松原町・一ツ橋がある。

11. 桜ヶ丘 1975 年<昭和 50 年>1 月 20 日・住居表示。

「伊丹小唄」(伊丹市史第三巻・地域研究いたみ27号・火曜会通信91号)の歌詞に登場するなど、上記(ウ)に該当する。

昭和 9 年、伊丹町会は県知事の諮問に答えて、大鹿地区の耕地整理組合の造成地を大鹿字桜ヶ丘と称することに決した。3 丁目で石鏝が 2 個採集されている。伊丹幼稚園あり。

12. 清水 1975 年<昭和 50 年>1 月 20 日・住居表示。

当地も上記(ウ)に該当する。旧小字名は堀越・大広寺・清水町・金岡町。平安時代の「巨勢金岡」の使った湧水伝説※からと考えられる。1902 年<明治 32 年>兵庫県立伊丹中学校(現北中学校)が開設された。清水橋あり。

※伊丹清水町にあり。霊泉にして四時増減せず。此地の北方を金岡という。むかし巨勢金岡聖宝尊師の命によりて 当所の景色を絵図に模し、内裏へ献りし時、画工に用ひし清水となり(1798年撰津名所図絵)

13. 鈴原町 1955 年<昭和 30 年>12 月 1 日・町名変更。

鈴原町は 1～4 丁目が旧川辺郡伊丹町大字伊丹、5～7 丁目と 8 丁目の一部が旧川辺郡稲野村大字昆陽・南野であった。元来、鈴松・破塚・岩田・南ニタ塚・飛田。伊丹字鈴(篠)松の「鈴」と「みなもと」「はじめ」のイメージのある「原」の合成である。

14. 高台 1973 年<昭和 48 年>12 月 1 日・町名変更。

旧大字北村の小字名は、自然・木仏・石仏・天神前・東自然・西自然。平坦な伊丹において伊丹台地の高度を表している地名。緑ヶ丘住宅地経営の後半に、阪急電鉄が「伊丹高台住宅地」として月賦販売していることに関連するのかもしれない。1955 年<昭和 30 年>4 月 1 日は緑丘小学校が開校されている。自然居士の墓および東中学校あり。1942 年<昭和 17 年>千代田光学(ユニカミノルタ)設置。

15. 中央 1976 年<昭和 51 年>2 月 1 日・住居表示。

旧小字名は山ノ上・扇町・米屋町・中ノ町・西ノ町・永長町・千歳町・若松町・昆陽口・旭町。1933 年昭和 8 年、伊丹字中ノ町に旧伊丹市役所前身の伊丹役場が建設された。古くから伊丹の中心であった。1987 年昭和 62 年伊丹第一ホテルオープン。郵便局あり。法巖寺のクスノキあ

り。

16. 西台 1975年<昭和50年>1月20日・住居表示。

現在は、**阪急伊丹駅**があり、伊丹市中央部といえる。北を船原、北東の一点を宮ノ前、東を中央、南東の一点を平松、南を梅ノ木、南西の一点を鈴原町、西を行基町と接する。1928年昭和3年、西台地主組合が住宅地造成(第1期工事)。悠紀・主基・桜木・呉竹・梅園・行基町が誕生している。後、美山町・相生町。西台の地名由来は、江戸時代の有岡八景「西台の夕照」という夕陽の名所として詠われていた西台(にしんだい)の名を取って命名された。

17. 東有岡 1974年<昭和49年>7月10日・町名変更。

西は、現JR福知山線の東側線、東は猪名川右岸、北は、駄六川右岸、南は尼崎市境界に囲まれた地域。**旧小字名は、古城下、下市場、稻ヶ崎、古川、島ヶ崎、黄金塚の全域、および、古城、竹樋、外崎、山ノ下、八幡、鳩ノ垣内、雲正ノ下の一部地域。**「有岡城の東に当たる地域」※として新地名に採用された。1920年<大正9年>東り竣工。1966年<昭和41年>上野製薬設立。1969年<昭和44年>有岡小学校設立。JR伊丹駅あり。

※一時有岡と称せし事、荒木村重が同国茨木よりこの地に移り池田なる有岡城の名を藉り斯く称せり説あるも、この地の東南園田村の内、猪名寺村に東明岡なる古趾ありて、由緒を法園寺の縁起に取るも、思うに現今の伊丹町と猪名寺村とは、荒木氏全盛の頃、若しくはそれより古く丘阜の接続地たりしなるべく即ち有明岡を省約して、有岡と称せしならん。(川辺郡誌)

有明の岡にいふハ河辺郡猪名寺村にありて、撰陽軍談にいへり、しからハ伊丹をありおかの里といふ事極めて有明の岡といへる三字をもて中略して有岡といふと見えたり、まことに古言也(有岡古続語)

18. 松ヶ丘 1953年<昭和28年>11月17日・町名変更。

旧大字寺本・中野の小字名は、奥畑・下野墓西・東赤塚・中赤塚。此の地(昆陽池の西側の中野)から寺本松崎、山田松崎あたりまで「松林」が続いていた。昭和20年代後半に市営住宅が建設されている。

19. 美鈴町 1966年<昭和41年>11月5日・町名変更。

伊丹市南部に位置する。**旧大字昆陽・堀池の小字名は、道ノ辺・赤所・ハザ・道ノビ・カタヤマ。**北を昆陽泉町、北東の一点を昆陽東、東を鈴原町、南東の一点を南鈴原、南を南野北、西を堀池と接する。昭和41年に実施された町名変更は、市民から町名を募集した。春日丘とともに、地域住民の応募が採用された。応募動機によると、鈴原町に隣接することから、「鈴」をとり、「優美さ」を加えたという。1959年昭和<34年4月>に明仁親王(平成天皇)と正田美智子氏の婚姻に関係があるのかもしれない。瑞祥地名

20. 瑞ヶ丘 1981年<昭和56年>3月1日・町名変更。

旧大字大鹿の小字名ウヅワ・西ノ田・城ノ中・角入・上行並・下行並・東玉田。なお、瑞ヶ丘2丁目は昆陽池の埋立地である。同5丁目は瑞ヶ池(大鹿池)の埋立地であり、1970年<昭和45年>には瑞ヶ池を伊丹市水道貯水池としている。**市立野球場および県立特別支援学校あり。**

以下「瑞原」「瑞穂」とも関連。「瑞」は「若い」「めでたい」「きざしい」という意味をもつことから、瑞祥地名と考えられる。「瑞」は瑞ヶ池からの採用と考えられる。住居表示に関する法律では「従来の名称」を求めているからだ※。しかし「大鹿ずいが池」もしくは「ずがいけ」と、「ずい」または「ず」と呼ばれていたものを「みず」と呼ぶのは「従来の名称」に準拠してはいないと考えられる。さらに、「瑞」は常当用漢字ではなく、かろうじて「人名用漢字」である。13画ではあるが、漢検では準1級にあたる読みにくい字といえる。

※ 住居表示に関する法律第5条;町又は字の名称をあらたに定めるときは、できるだけ従来の名称に準拠するとともに読みやすく、かつ、簡明なものにしなければならない。(町名改正当時条文ママ)

21. 瑞原 1969年<昭和44年>3月12日・町名変更。

旧大字中野・東野の小字名は玉田・中玉田・北玉田・城ケ市。1959年昭和34年瑞ケ池の北側を埋め立て、三菱電機(株)北伊丹工場を設立した。

※「瑞」については、「20. 瑞ケ丘」の項参照。

22. 瑞穂町 1969年<昭和44年>3月12日・町名変更。

旧大字大鹿の小字名は北ノロ・上ソワ・下ソワ・恋野・墓ノ元・野口・大鹿田・南ノ形・北ノ形・尼ケ池下・東臺・西臺であり、瑞ケ池の南に位置する。1967年昭和42年旧尼ケ池跡地に瑞穂小学校を開設。瑞祥地名。

※「瑞」については、「20. 瑞ケ丘」の項参照。

23. 緑ケ丘 1962年<昭和37年>1月2日・町名変更。

旧大字北村・大鹿・東野の小字名は奥谷・天神山・東下り・西下り・バン田・南良蓮寺・北良蓮寺・草野・神楽塚・墓廻り・墓ノ前・辻ノ内・北苔原・南苔原・北出口・南出口・西開地・西自然主膳池・猿ケ山・大塚・西大塚・一番池ノ上。1931年<昭和6年>に緑ケ丘土地建物(株)が、また1933年(昭和8年)から阪急電鉄(株)が北村の土地をそれぞれ住宅地として売り出した。緑ケ丘土地建物(株)を設立したのは、後に初代伊丹市長となった深川重義氏である。1951年<昭和26年>、兵庫県及び伊丹市は自衛隊を誘致した。1丁目の市営プール付近で石鏃が3個採集されている。また、「高台」にある緑丘小学校に、「ケ」はつかない。伊丹廃寺跡および県立伊丹高校あり。

24. 南鈴原 1995年<平成7年>11月6日・町名変更。

旧大字南野小豆領(あずきりょう)が鈴原町9丁目として編入された際に大字南野の残余の部分を以て新しく南鈴原1~4丁目として、町名変更が実施された。鈴原町の南に当たること、また南野南菱町から命名された。旧大字南野・御願塚の小字名は南菱町・山道・飛田・小豆領・広田・林・池ノ上・大越。旧稲野村大字南野の一部だった地域で、旧大字南野南菱町(なんりょうちょう)を中心とする区域である。南菱町は1950年<昭和25年>3月10日の耕地整理によるが、伊丹市南部の若菱町と同様、(昭和16年開発地を昭和18年買取)三菱電機伊丹製作所の社宅に由来して命名された。「南野」と「三菱」の組み合わせと考えられる。東消防署南野出張所あり。

25. 南町 1975年<昭和50年>9月1日・住居表示。

旧大字御願塚・伊丹の小字名は満塚・塚崎・掛塚・平松。26. 「南本町」より更に南に位置する。1949年<昭和24年>青旗缶詰(株)(後、キューピー伊丹工場)製造開始。南中学校および阪急バス営業所あり。

26. 南本町 1975年<昭和50年>9月1日・住居表示。

地名由来は、伊丹郷町を南北に縦貫する本町通の南側に当たるが伊丹郷町からは外れる。1928年昭和3年よりはじめた西台地主組合の住宅地造成の第3期工事とした南部部分である。1935年<昭和10年>野田宮・忠田・平松および南本町。命名に、元県職員の羽路壽藏氏関与が考えられる。

27. 若菱町 1957年<昭和32年>12月1日・町名変更。

旧大字御願塚・南野の小字名は、勘定舗・庵ノ前・東安堂寺。「南鈴原」で述べた伊丹市南野南菱町と同様、三菱電機社宅であったことから命名された。地名由来は「若」という新しさと、三菱の「菱」との組み合わせと考えられる。瑞祥地名